



# 滝内 歯科 医院

## 医院 だ よ り

〒 660-0871

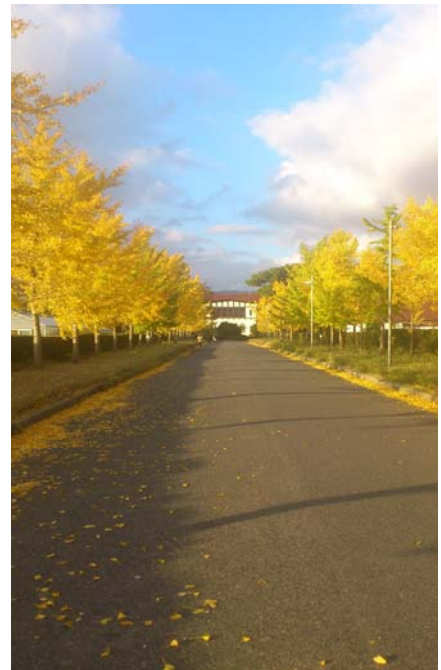
尼崎市建家町 77 番地

TEL 06-6412-6480

<http://www.takiuchi6480.com/index.html>


いよいよ今年もわずかとなってまいりました。12月25日といえば、Xmas。ですが、スケートの日でもあるらしいです。そもそもスケートは石器時代から存在し、北ヨーロッパあたりで凍った川や湖を渡る運搬用具として各地に広まったらしいです。日本へは1877年、札幌農学校（現北海道大学）の先生としてやってきたアメリカ人のブルックスという方がスケート靴をもってきて紹介したことから広まったようです。

右は、先日偶然通りかかった京都大学の農場の銀杏並木。もう何年もスケートなんてやったことないですが、木枯らしという言葉の似合うこの景色の中でスケートができれば素敵だなんて思いました。



歯医者だけが知っている…!?

## 歯にまつわる いろいろ話

### 大昔の人々は歯痛をどのように考えていたのか？

大昔は歯科医もない時代でしたので、おそらく当時の人々は歯痛に対する不安感や恐怖感は相当なものだったでしょう。

そこで今回は「昔の人々は歯の痛みに対してどのように考えていたか？」を少し垣間見てみたいと思います。



#### 古代中国では・・・

古代中国の甲骨文字（紀元前1700年～1028年頃の中国最古の文字）によると、『王の歯を疾めるは、これ虫なるか、これ虫ならざるか』と書かれており、当時は「歯を食う虫がむし歯の原因」と考えられていたそうです。また、隋時代（西暦581～618年）の医学書には、『歯を食う虫は体長が6～7分で黒い頭』と具体的な大きさや色が書かれているようですが、おそらくこれは「歯の神経」を虫だと思い込んでいたためと考えられています。

#### 古代バビロニアでは・・・

世界最古「メソポタミア文明」の発祥地として知られる古代バビロニア時代の書物（紀元前1900年頃のもの）には、『歯を害する虫は呪文を唱えれば退治できる』と記されています。この時代の人々は、痛い歯に呪文を唱えた後、ヒヨスの実を歯の穴に詰めて痛みを取り除いていたようです。※ヒヨスとは、ナス科の越年草のこと。

#### 大昔の日本では・・・

日本では、明治時代までむし歯の原因や正体は全く知られていませんでした。それ以前の日本では、歯ぐきが腫れて熱を持つと、あごの周りがまるで蒸されたようになるため、「蒸し歯」と呼んでいたという説もあります。また、治療法も「急急如律令」と紙に書き、それを口にくわえて噛めば治るとか、絵馬を奉納すれば治るとか、神だのみの的な要素が大きかったそうです。